

# みんなの疑問・質問にお答えします



水田に海水が入ると  
どうしてお米づくりに  
えいきょう  
影響があるのですか。

## お米 Q&A

本文監修  
国立大学法人新潟大学 農学部応用生物化学科  
教授 大坪 研一



## A

海水中には塩がたくさんふくまれています。稲はもともと真水の沼や  
しっち  
湿地で育つ植物です。そのため、塩が多くふくまれている水や土で栽培すると、  
えいきょう  
塩の影響で根が水をうまく吸えなくなったり、逆に稲の水分が土に吸われたりする  
いね  
ことで、稲が弱ってお米の収穫量が減ったりして、ひどい時にはかかれてしまいます。

また、根から塩が多く取り込まれると、からだのなかのミネラルバランスがくずれ、  
しゅつかく  
生長や実りのための機能に異常が起きるので、お米の収穫量が減ったり、かれて  
えいきょう  
しまったりもします。さらに、海水中の塩分の影響で、土の成分組成(成分の割合)  
だんりゅうこうぞう  
や構造が変わってしまい、水田に適した構造(団粒構造といいます)をとりにくく  
なることもあります。

なお、塩を多くふくんでしまった水田は、川などの真水で何回も浅い代かきを  
しろ  
して、真水で塩を洗い流す対策をします。この対策で、土のなかの塩分(食塩換算)  
かんさん  
のうど  
濃度が0.1パーセント未満になれば、お米をつくれるようになります。

(社)米穀安定供給確保支援機構(米穀機構) 情報部

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町 15-15 TEL 03-4334-2161・FAX 03-4334-2167

▶ 「Q&A」のトップへもどる ◀

▶ 米ネットトップページへもどる ◀